

今津地域まちづくり計画2024~2028 概要版

さあみんなぞうぼう!

# 湖のまち物語

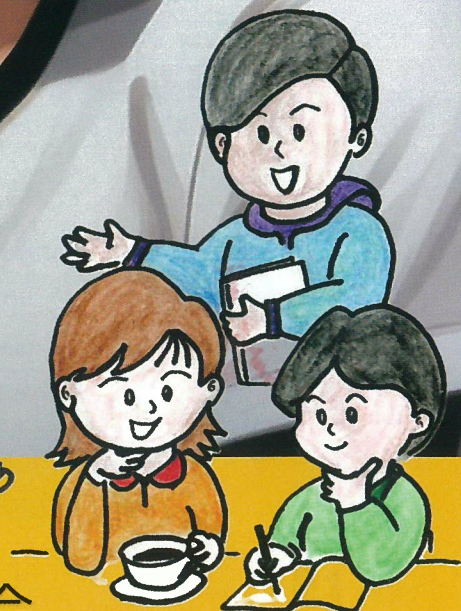
未来の  
風を  
つかまえて  
いこう!



こんな“まち”に  
なったらいいなあ

つながろう今津

高島市今津地域住民自治協議会



# まちづくりの方向

## CONTENTS

今津地域住民自治協議会では、今ある資源を最大限活かしながら、社会状況の変化による地域課題に向きあい、今津のめざす姿と将来を創造できる魅力的なグランドデザインを、2023～2024年度に検討してきました。

計画は、基本構想を今から30年後であるおおむね2053年の「こんな今津であればいい」という姿をめざし、基本計画を具体的な取り組みが想定できる10年程度を対象としました。



今津には、季節で彩りをかえるびわ湖と山々、文化が行き交った歴史、暮らしのなかに息づいた伝承や伝統的な産業、暮らす人々のつながりなど、他に誇れる大きな魅力が多くあります。

将来への多様な道筋を住民、企業、団体、高島市等のつながりのなかで共に考え、共に行動しながら、誇りと居心地の良い街になることをめざして取り組んでいきます。

思い描く今津となるように。

未来へのプロローグ

基本構想

こ

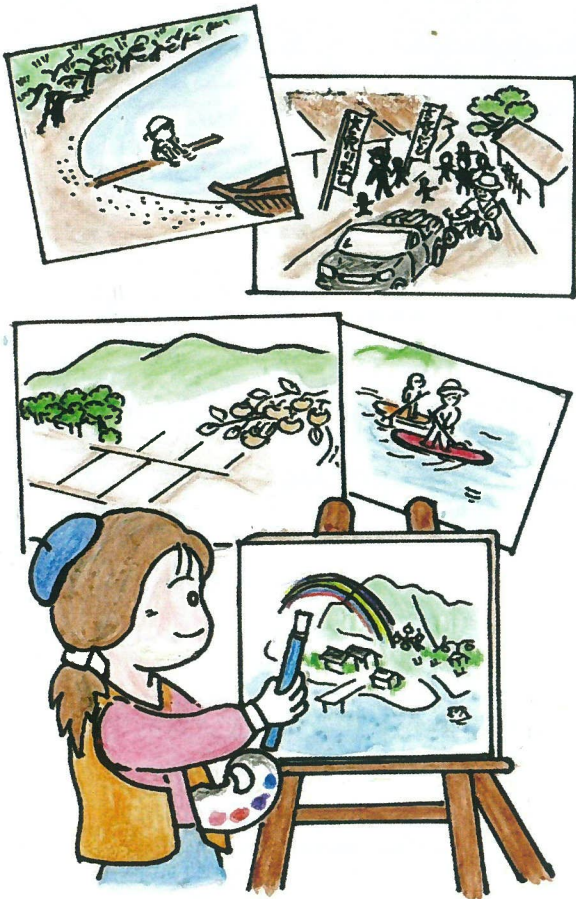
ものがたり

# 湖のまち物語

~ぐるぐるつながるまちづくり~



## 基本構想のコンセプト



今津は、びわ湖のほとりに人が住み、港を中心に湖上交通が生活を支え、地域の要衝として栄えてきた歴史あるまちです。

日本海と都をつなぐ街道が、物や文化、人の交流をもたらし、今津は宿駅として重要な役割をはたしてきました。

緑深い山々から流れる豊かな水は、大地に恵みをもたらし、食文化に彩を与え、旅人をもてなしたことでしょう。

そんな素敵なこのまちを、この先どのようにつないでいくのか、それは私たちがみんなでもつくりだしていくしかありません。

みんなが関わり、さまざまなつながりがつなかりを生み、また広がって新たなつながりを生む。そんな地域のなかからぐるぐる回って広がっていけば、最高ですよ。

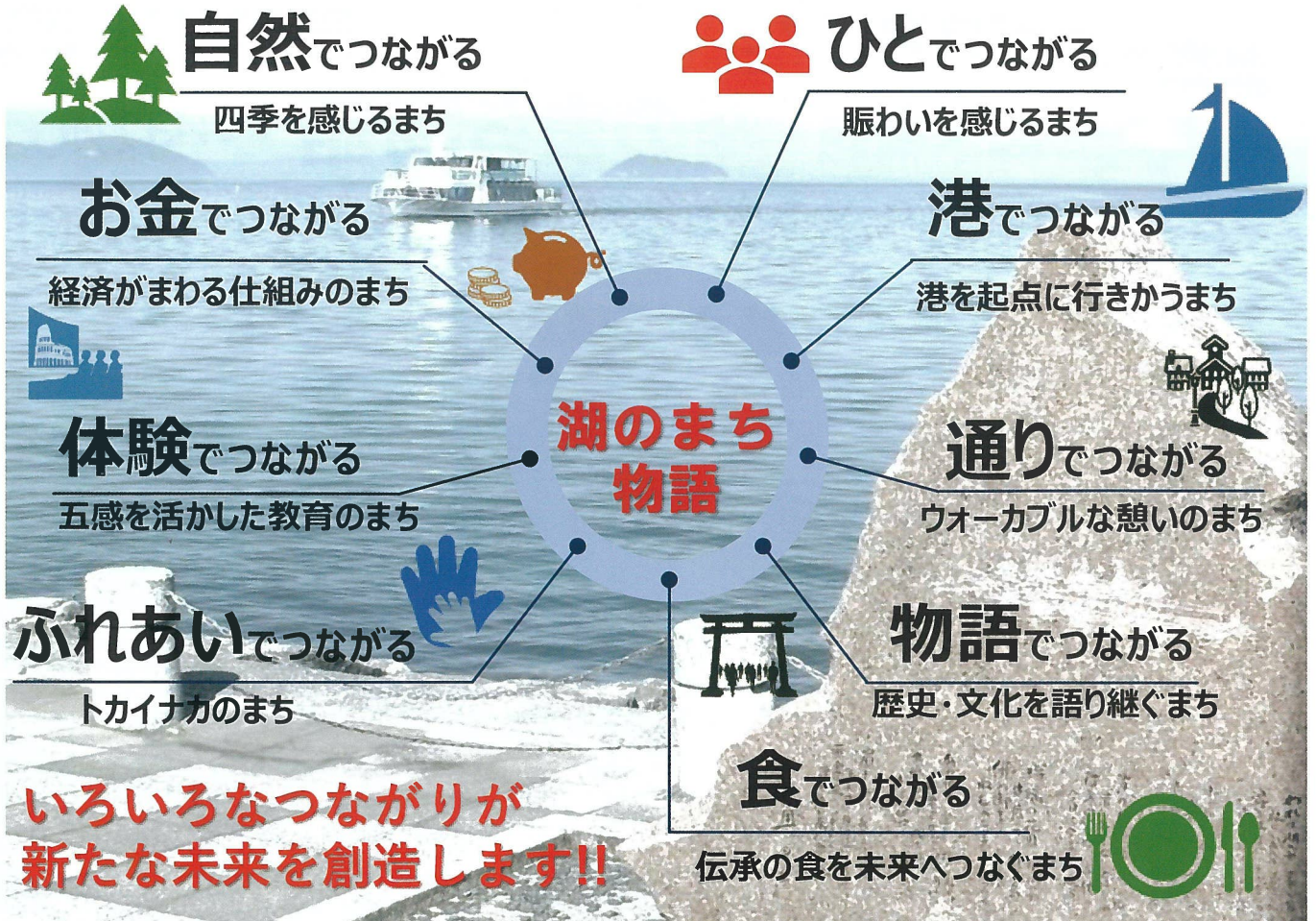
そんな想いを基本構想にしました。

7つのコンセプトを  
基本計画に!!

基本構想実現のための

- ◆人や物が行き交いつながる「まち」
- ◆現代版街道の賑わいがある「まち」
- ◆安全・安心で居心地の良い「まち」
- ◆多様を受け入れる共生の「まち」
- ◆自然と食、文化を活かす「まち」
- ◆今津の力を最大限活かした教育の「まち」
- ◆将来を担う人をはぐくむ「まち」

# “ぐるぐるつながる” キーワードは…



当協議会では、「まちづくり計画策定プロジェクト」チームを編成し、多くの委員の皆さんと一年以上議論を続けてきました。

今津には大きな魅力がありながら、活かされていないという議論からはじまりました。

課題から、つながる「夢」にむかって、こんな街にしたい、こんな街になればいい、と積み重ねた構想です。

これから構想や計画を、どうして実現していくのかが活動の柱となります。

湖のまち物語は、みなさんと一緒に語り、一緒に紡いでいくものです。多くの関わりのある人が、動きながら連携し、協働しながら輪が広がっていくことが基です。

みなさんから、いろいろなご意見やご協力をいただきながら、一緒に湖のまち物語をつくっていきましょう。

## 基本計画の方向性



## ウォーカブル(Walkable)トカイナカ

ウォーカブル(Walkable)とは、歩く(walk)とできる(able)を組み合わせた造語で、「歩きやすい」や「歩くのが楽しい」という意味です。ウォーカブルなまちづくりと表現するのは、居心地が良く、歩きたくなるまちづくりと定義されています。

トカイナカは、「都会」と「田舎」を組み合わせた造語で、都市の利便性と田舎の自然環境を両方享受できる地域を指します。

そこで、とくにJR近江今津駅を中心に、トカイナカを満喫し、ウォーカブルなエリアのなかに、今津地域の誇れる魅力的な資源を活かしたまちづくりをすすめていきます。

# ひとで、通いで、自然で、 港で～つながる!!

### ◆人が集まる住みよい「まち」

街道復活のベースは何といても、今津に多くの人  
が訪れ、多くの人がかかわり、多くの人がつながるま  
ちづくりです。

無いものを探すのではなく、あるものを活かす。不  
便だからこそその魅力に、価値が生み出される事例も多  
くあります。今、多様な生き方が広がっているなか、多  
くの人が集まるテーマパーク型ではなく、オンリーワ  
ンの魅力を活かすことが「人が集まる」ことにつなが  
ると考えています。



#### 「人が集まる9ヶ条」

- 1 人は、人が集まる処へ集まる
- 2 人は、快適な処へ集まる
- 3 人は、噂になっている処へ集まる
- 4 人は、夢の見られる処へ集まる
- 5 人は、良いもののある処へ集まる
- 6 人は、満足の得られる処へ集まる
- 7 人は、自分の為になる処へ集まる
- 8 人は、感動を求めて集まる
- 9 人は、心を求めて集まる

(高野山真言宗 築港高野山 釈迦院より)

なかでも、議論を重ねてきたテーマは……

- ◆港とびわ湖を最大限活かした「まち」
- ◆活気あふれ、賑わいがある「まち」
- ◆憩える、ふれあえる「まち」
- ◆トカイナカの居住空間がある「まち」
- ◆芸術とスポーツが活きる「まち」

つながる!魅力と学びのあるまち

## 次代に拓く(ひらく)多様な農の価値

農には多くの可能性があります。

生業としての農の継承は、今津地域を考えるうえで大変重要な要素でもあります。農村で農業が継続して行われることにより、私たちの生活に色々な『めぐみ』をもたらしてくれます。

現在、農業・農村の持続可能性が危ぶまれている一方で、その重要性が再認識されています。生態系サービスを提供し「農業の多面的機能」や「里山」など、美しい農村風景は心を和ませるなど、大きな役割を果たしています。

とくに今津には流域ごとにさまざまな顔があり、びわ湖にそそぐ流れは、次世代につないでいきたい資産と考えています。



(参考 農林水産省 農業・農村の有する多面的機能)

なかでも、議論を重ねてきたテーマは…

- ◆生業としての農の継承
- ◆農を楽しむ多様なつながり
- ◆特産品を活かした儲かる農業
- ◆地域でつながる農の価値
- ◆発酵を起点とした食の伝承

つながる! 自然と学びのあるまち

## 生きるためのエデュケーション

豊かな自然や食、伝統文化が残る今津地域。

近年、都会への人口一極集中により、少子高齢化に拍車がかかり、貴重な環境が失われつつあります。こうした自然環境を守るには、環境資源を最大限活かした「教育の場」が有効であるとわたしたちは考えています。

こうした優れた環境と、なにより地域コミュニティを守ることは、未来に向けて、あらたな役割を見つけ出すことにつながると考えています。

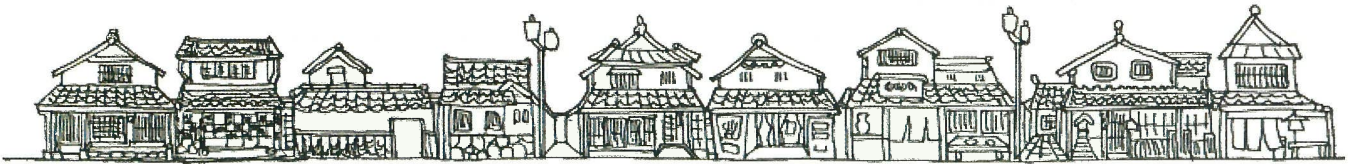
今津地域の自然は、今津に訪れた多くの人々が声をそろえて絶賛します。びわ湖から田園を通り里山、豊かな森、山へとつながる環境は、是か非でも将来につなげたいと思っています。

同時に、都会にはない教育的価値のある環境や、自然や地域の文化がある環境での学びは、生きる力を生む原動力となり、子どもたちをはじめ多くの人々が「豊かに生きる」ことにつながると考えています。



なかでも、議論を重ねてきたテーマは……

- ◆体験・経験でつなぐ山・森・里山
- ◆生きる力を育むエデュケーション
- ◆「むら」の拠点づくり
- ◆積極的な関係人口づくり
- ◆人口減少のなかでも、生き残れる地域の仕組みづくり



## 基本計画 街道復活 ～行き交う活気あるまち～

### prologue 1 人や物が行き交いつながる「まち」

#### 重点ビジョン —未来像—〈2026年～優先して取り組むビジョン〉

1. 将来につながる人と物と経済が回る仕組みづくりを念頭に、実践をつうじて活力あるまちづくりに取り組みます。
2. 今津地域にはいくつもの通りがあり、かつての街道としての活気ある通りの復活をめざしています。その通りと身近にあるびわ湖を活かすことを最優先に取り組みます。
3. JR近江今津駅を中心とした観光ビジョンにあわせ、琵琶湖周航通りからの観光拠点づくりに取り組みます。

#### 【優先して取り組む項目】

#### 1. 通りとびわ湖を活かす仕掛けづくり

- ▶ 特産市の開催  
人の流れを創っていくための仕掛けとして、街道をつなぎ人や物をつなぐ特産市「今津壱番市」を開催し、活気ある「まち」をめざします。  
琵琶湖周航通りから浜通り、ヴォーリス通りへと街さんぽを楽しむコースに、人の流れを生みだす「まち」をめざします。
- ▶ 街さんぽのガイド  
今津街あるきコースの案内を担うガイド育成と今津の魅力を発信し、各種団体と連携し、通りの賑わいをめざします。
- ▶ 通りの活用事業  
街にあかりをプロジェクト実行委員会に協力し、JR近江今津駅西口広場にイルミネーションを設置し、商店街への誘導と広場の活性化をめざします。
- ▶ 「レイライン」推進事業  
年2回の貴重なパワースポットとしてのレイライン（御来光の道）を、文化と観光のスポットとして定着をめざします。

#### 2. 旧琵琶湖周航の歌資料館の活用と通りの拠点づくり

- ▶ 旧琵琶湖周航の歌資料館の最大活用  
JR近江今津駅から今津港に至る観光メイン通りに、「琵琶湖周航の歌」発祥の地を前面に打ち出した拠点づくりに取り組みます。

## prologue 2 現代版街道の賑わいがある「まち」

### 重点ビジョン —未来像—〈2026年～優先して取り組むビジョン〉

1. かつて人や物や行き交った賑わいある街道、そんな街道を現代版に据え、さまざまなものがつながるウォーカブルなまちの創出に取り組めます。
2. 今津が誇れる歴史の再発見と賑わいを復活する統一した活動をすすめます。
3. 魅力ある街道・通りの戦略的な取り組みと発信機能を強化します。

#### 【優先して取り組む項目】

#### 1. ウォーカブルでつながる通りの活性化

- ▶ 街道、通りの魅力向上とウォーカブルを支える環境整備に取り組めます。
  - ・まちあるき看板設置事業
  - ・歴史文化自然の啓発事業
- ▶ 通りをつなぎ、一体的な活性化に取り組めます。  
通りの拠点や活動する団体等をつなぎ、人が集まる魅力ある通りに取り組めます。

#### 2. 「食」を起点とした魅力発信に取り組めます。

- ▶ 誇れる地域食の魅力向上に取り組めます。  
伝統ある食材や琵琶湖由来の食材など、街あるきを活かした食の魅力をさらに高めます。



## prologue 3 安全・安心で居心地の良い「まち」

### 重点ビジョン —未来像—〈2026年～優先して取り組むビジョン〉

1. 災害時に慌てないまちづくりは、常に地域で「守るべきものは守る」体制の確立が必要です。さまざまな災害に対応する安全・安心のまちづくりに取り組みます。
2. 災害から誰ひとりも命をおとさないまちづくりは、区・自治会と一人ひとりの防災意識にあります。さまざまな想定の中でさまざまな支援に取り組みます。
3. 次代を担う子ども達の安全・安心を確保するため、地域や学校、親、関係団体とも連携し、子ども達を守る体制に取り組みます。

#### 【優先して取り組む項目】

### 1. 自分ごととしての安全・安心確保の支援

- ▶ 広域避難所単位での災害対応力の強化  
災害は、地震などの自然現象とそれを受け止める社会の在り方により、被害の大きさが決まってくると考えられています。

災害時の困難を最小限にするには、対応する社会的状況をしっかり整備しておくことが重要です。そのための広域避難所単位での災害対応力の強化に取り組みます。

- 地域防災活動支援事業

広域避難所単位で継続した取り組み体制の確立や自主的活動の支援をおこないます。

- ▶ 区・自治会の危機管理意識の醸成と災害対応力の強化支援  
平時から災害に対する意識の醸成は、個人や区・自治会など、各層での日頃からの防災活動が重要です。防災リーダーや女性、高齢者などの多様な視点をもって活動を支援していきます。

- 地域防災活動支援事業

個人や区・自治会、想定される避難者など、個別避難行動計画など、あらゆる災害に対する支援活動に取り組みます。

### 2. 次世代の安全を地域で守る活動

- ▶ 次代を担う子どもの安全・安心を守る  
子どもを取り巻く環境のなかに、一人でも多くの目があることが地域での見守りにつながります。学校や親、団体と連携して安全・安心を確保できる支援に取り組みます。

- 下校時の見守り活動支援事業

下校時に同行しながら、安全の確保と地域の見守り活動を支援します。

- 「こども110ばんのいえ」啓発事業

「こども110ばんのいえ」活動の地域定着と「ながら見守り」活動など、地域で守る活動に取り組みます。

## prologue 4 多様を受け入れる共生の「まち」

### 重点ビジョン —未来像— 〈2026年～優先して取り組むビジョン〉

地域共生社会は、多様な人々が年齢や障がいの有無、あるいは住んでいる地域の差を超えて支え合い、それぞれが自分らしく生きることを目指す社会のことです。

そんな社会を地域全体で支え合い、誰もが当事者として地域にかかわり続けられるようなるまちづくりに取り組みます。

#### 【優先して取り組む項目】

- ▶ 世代をこえて地域を結ぶ取り組み支援  
子どもだけでなく多世代の交流もふくめ、地域でつながり続けるために取り組み支援をおこないます。
  - ・子ども食堂支援事業  
年齢、地域、環境等を超えて学び、交流できる場の重要性が増しています。今津地域で実施されているコミュニティの場として子ども食堂活動を支援します。
  
- ▶ 農・里・湖などを基点とした新たな今津プロデュース  
広く今津をアピールし、地域共生社会のなかでの空き家対策や移住・定住など、将来につながる新たな今津の発信機能の強化に取り組みます。
  - ・広報活動事業  
今津地域の戦略的広報活動に取り組みます。特に、対外広報は活動の必須項目で、さまざまな媒体を活用した機能強化に取り組みます。
  
- ▶ 地域の課題を共有した団体との連携
  - ・つなぐ組織の活性化支援事業  
地域の活動団体では、多くの課題を抱えながら活動を継続しています。なかには共有する課題もあり、将来にむけた連携体制など、各団体とともに検討をすすめます。



## prologue 5 自然と食、文化を活かす「まち」

### 重点ビジョン —未来像— 〈2026年～優先して取り組むビジョン〉

今津地域には誇れる特産品が数多くあります。古来、山からびわ湖にそそぐ流域に自然からの恵みや食文化が根づいていました。取り巻く環境の変化が、伝承する難しさにつながっている状況ではありますが、一方、地産地消や土着した食や文化の見直しも、自給的生活などにみられるように原点回帰の動きも起こっています。

#### 【優先して取り組む項目】

- ▶ 今津の特産品や地産地消イメージを活かすプロモーション戦略をもって地域イメージの向上に取り組めます。
- ▶ 「地域おこし協力隊」制度を活用し、まちづくりの活性化に市と連携して取り組めます。
  - ・JR近江今津駅を中心に、魅力的な資源を活かした現代版街道復活に取り組めます。
  - ・琵琶湖を拠点として、生業として漁業やイベント等、湖魚文化などの情報発信に取り組めます。
  - ・里山の資源を活かしながら魅力を伝え、自立できるための支援に取り組めます。

## prologue 6 今津の力を最大限活かした学びの「まち」

### 重点ビジョン —未来像— 〈2026年～優先して取り組むビジョン〉

今津の持つポテンシャルを最大限活かした学びの場としての活用をすすめます。

現代は情報化社会の進展にともない、デジタル化が必須とされる社会のなかで、リアルな「実体験」は貴重な生きる力につながると再評価されています。一方、自然そのものの実体験するには、環境をふくめ限定されてきています。

今津地域には、里山をふくみ豊かな山や川、琵琶湖があります。歴史や伝統があります。ある資源を活かす学びにこそ現代社会に求められている取り組みだと考えています。

#### 【優先して取り組む項目】

- ▶ 山と里山の力を身近に感じる体験型学びの取り組み  
地域資源や伝統行事など、今津を活かした「学び」の実践を、関係する団体や個人と連携して取り組めます。
- ▶ 地域、行政と連携したサポート体制により「地域おこし協力隊」を導入し、地域の活性化に取り組めます。

## prologue 7 将来を担う人をはぐくむ「まち」

### 重点ビジョン —未来像— 〈2026年～優先して取り組むビジョン〉

地域の子どもは地域で育てるという意識のもと、子どもが安全・安心に過ごせ、地域を誇りに想う意識の醸成と子どもを地域全体で支援することに取り組みます。

#### 【優先して取り組む項目】

- ▶ 子どもまんなか社会の実現にむけ、ライフステージに応じた支援に取り組みます。
  - Base子ども活動事業  
子ども会活動など、活動自体が低迷していることをうけ、子どもがいきいきと成長する活動支援をおこないます。
  - 子ども食堂支援事業  
子ども食堂と地域、団体がコラボし、子どもの居場所づくりを支援します。
  - 今津の自然を学び守る事業  
小、中学生と地域団体が連携し、琵琶湖岸のハマヒルガオと特定外来生物のナガエツルノゲイトウを通した環境学習を継続して実施します。
  - 小、中、高校生の地域デビューを応援する事業  
トークフォークダンスや今津の歴史など、地域を知る探求活動を支援します。





## prologue 8 計画推進にあたって

### 重点ビジョン 全体活動をすすめるために

計画の実現には、住民一人ひとりの想いを形にしていくことが大切です。そのためには関係する団体や住民、行政など、有機的なつながりが欠かせません。

ともにできる範囲で、多様な人が活動にかかわることこそが原動力です。この原点にたちながら、基本構想の実現に向けた活動をすすめていきます。

#### ▶ 今津地域住民自治協議会委員の100名体制

柔軟な組織体制と事業実施体制、サポート(協力員等)体制など、将来にわたり活動をすすめていくうえで、関係する委員の増員は欠かせません。

いろいろな想いや考え方を持つ人が集まることで、新しいものが生まれます。得意なことを活かせる場であり、チャレンジできる場でもあります。

また、活動ひとつひとつが楽しくなければなりません。同じ目標を持ちながら、ともに動いてこそその住民自治協議会です。

ぜひ、ご参加ください。

#### ▶ 情報発信の強化

情報は伝えたい人に的確に届けることが大切です。さまざまな広報媒体を使いながら、積極的に発信を強化します。

現在、5つの部会(2026.4)で活動しています。各部会活動をより知っていただき成果を上げていくには広報の強化は欠かせません。戦略をもって取り組みます。



**毎週土曜日 13:30～17:00** お待ちしています。  
**よろず相談** お気軽にお越しください！

今津東コミュニティセンター(今津公民館)の一室を借り、気軽にお越しいただける場を用意しています。

ちょっと気になっていることやどこに聞けばいいのか？こんなことで困っている！こんなことやってみたい！など、いろいろな地域のアレコレをお聞かせてください。

**アしゃ～コしゃ！**  
**聞かせてください！**  
**どんなことでも！！**



**仲間募集中！**

**いっしょに！楽しく！！**  
**いろんな人がかかわる「まち」づくりを！**

今津地域住民自治協議会では、「ともにまちづくりをやる仲間」を募っています。まちづくりは、人と人とのつながりがベースです。ひとつひとつ形にしていくにはマンパワーが必要です。仲間といっしょに楽しく、できるときに、できる事からやっ  
ていく、そんなスタンスで取り組んでいます。

興味のある方、ちょっと何かやってみたいな～と思われた方、いっしょにやりましょ！

現在、60名あまりの委員で構成していますが、第一次目標は、100名！です。

まず、お気軽に東コミュニティセンター(今津公民館)にお越しください。

お待ちしております。

ぜひ、一緒に！！

**ぜひぜひ！**



未来の今津!  
ひとつひとつ、みんなで実現  
させましょう!!



つながろう今津

高島市今津地域住民自治協議会

事務所 〒520-1622

滋賀県高島市今津町中沼一丁目4-1

今津東コミュニティセンター(今津公民館)内

事務局 090-4927-3222

staff@imazu-jichikyo.org